



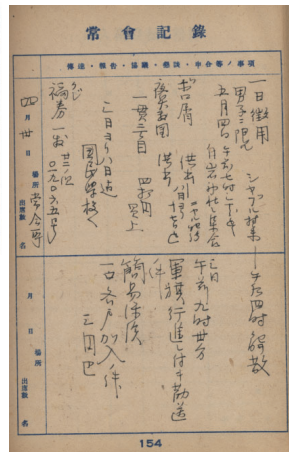
**百億貯蓄促進經濟戰強調運動ポスター**

1939 (昭和14)年 増加する戦費の一部を国民の貯金を充てるため貯金が奨励された。1939年の国民貯蓄目標額は100億円とされ、その貯蓄を經濟戰として呼びかけるポスター。そのほか貯蓄組合の結成や賞与の貯蓄・国債での支給が奨励された。



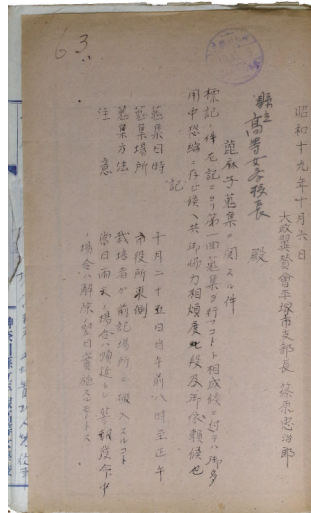
**報国債券 1942 (昭和17)年**

急増する膨大な戦費を民間から調達するため、政府は各種の債権を発行した。報国債権は、1940年3月の臨時資金調整法改正により発行され、購入金額が町内会に割り当てられるなどした。



**『翼賛常会必携』常会記録 1944 (昭和19)年**

大磯町の隣組長の常会の記録。常会とは町内会や隣組で開催された定期的な会合である。「簡易保険一口各戸加入ノ件」と町内会を通じた簡易保険割り当てについて記されている。報国債権や簡易保険も各戸に割り当て集金する業務を町内会・隣組が担っていた。大政翼賛会神奈川県支部が発行する『翼賛常会必携』という手帳に記録されている。



**蕨麻子蒐集二関スル件**

1944 (昭和19)年10月6日 大政翼賛会平塚市支部長である平塚市長がヒマの種子の収集を県立平塚高等女学校長に依頼する通知。大政翼賛会は機械の潤滑油に使える「ひまし油」を採るため、ヒマの栽培を奨励していた。(神奈川県立平塚高等女学校『昭和十九年度往復書綴』)



**国民服乙号上衣**

衣服の簡素化と国民精神の高揚をはかり、軍服にも転用できる服として、1940 (昭和15)年11月の国民服令により制定された。男子の標準服として着用が奨励された。



**国民服儀礼章**

古代紫色の組みひもでできており、儀礼章をつけることで国民服を冠婚葬祭の礼服として着用できた。ひもの端を国民服の第二ボタンに懸け、台座を胸ポケットのボタンに懸けて着用した